資料3

平成 30 年 12 月 13 日
建築・都市整備・道路
委員会資料
都市整備局

神奈川東部方面線の速達性向上計画の変更等について（報告）

1 趣旨

神奈川東部方面線は、相鉄・JR 直通線の平成 31 年度下期開業、相鉄・東急直通線の 34 年度下期開業を予定し、整備が進められています。

このたび、整備主体である(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構及び営業主体である相模鉄道株式会社と東京急行電鉄株式会社から、本市あてに、神奈川東部方面線の速達性向上計画の変更案に関する協議がありましたので、その概要と今後の対応等についてご報告します。

2 速達性向上計画の変更案の概要

都市鉄道等利便増進法第5条に基づき、現計画のうち「駅名称」と「都市鉄道施設の使用料の額」が変更されます。

なお、速達性向上計画の変更は、国土交通大臣の認定を受けるにあたり、あらかじめ関係する地方公共団体に協議し、その同意を受けなければならないとされています。

(1) 駅名称

新駅となる羽沢（仮称）は、29 年 12 月に相模鉄道(株)から羽沢横浜国大とする発表があり、今回、その変更が行われます。

(2) 都市鉄道施設の使用料の額

相鉄・JR直通線では、整備主体及び営業主体が、最新の需要予測、実績等に基づき収入及び支出を再度算定したところ、乗車料収入額が減少したことや営業経費が増加したこと、また、開業当初の段階での需要定着度を考慮したことなど、営業主体の受益が減少することにより変更されます。

表 都市鉄道施設の使用料の額

路線名	現計画	計画変更案
相鉄・JR 直通線	1,570 百万円/年	31 年度 948 百万円/年 （開業日からの日割計算） 32 年度 948 百万円/年 33 年度 1,231 百万円/年 34 年度 1,515 百万円/年
相鉄・JR 直通線 相鉄・東急直通線	6,092 百万円/年	6,037 百万円/年

※整備主体は、営業主体が支払う施設使用料を財源として、借入金を償還するスキームであり、計画事業費（4,022 億円）には影響しません。

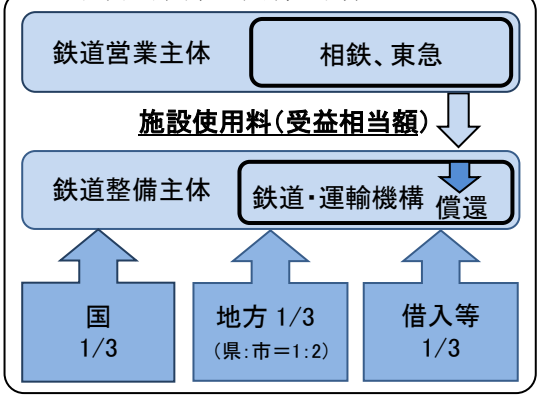
＜参考＞

〇都市鉄道施設の使用料について

都市鉄道利便増進事業では、施設を整備後、営業主体が整備主体に対し、当該施設整備による受益の範囲内で施設使用料(※)を支払って、営業を行います。

施設使用料(※)＝（整備による収入変化）－（整備による経費変化）

＜神奈川東部方面線 事業スキーム＞



裏面あり

3 本市の今後の対応

■ このたびの計画変更協議については、以下の理由に基づき、同意する方向で今後の手続きを進めます。

- 今回の変更が事業の根幹である事業費及び開業時期の変更などを対象とするものでないこと。
- 駅名称は、相模鉄道(株)が地域の意向を受けて選定したものであり、29 年 12 月の発表以降、特段異論もなく受け入れられていると考えられること。
- 施設使用料の額については、適正な条件の下に所定の方法により算出されたものであることが確認できたこと。

■ 31 年度下期の相鉄･JR線開業に向けて、整備主体及び営業主体は、遅くとも 31 年 4 月には国の変更認定を受ける必要があるため、31 年 1 月には同意する旨の回答を行います。

＜今後の手続きの流れ＞

平成 30 年 12 月	計画変更案の自治体への協議
31 年 1 月	協議に対する回答
2 月	整備主体及び営業主体が国に対して変更認定申請
4 月	国による変更認定

■ 回答にあたっては、一日も早い開業と事業費縮減に向けた最大限の努力等について、改めて要請します。

4 その他

(1) 相鉄･JR直通線開業時の東京都心方面の行先については、関係鉄道事業者によると、新宿方面となる見通しですが、本市としては、本路線の整備効果の向上に大きく寄与する既存の鉄道ネットワークを活用した多方面アクセスについて、引き続き、関係機関に申入れを行っていきます。

(2) 神奈川東部方面線の路線名称について、営業主体が本日(30 年 12 月 13 日)発表します。
(別添資料参照)

＜神奈川東部方面線の路線図＞

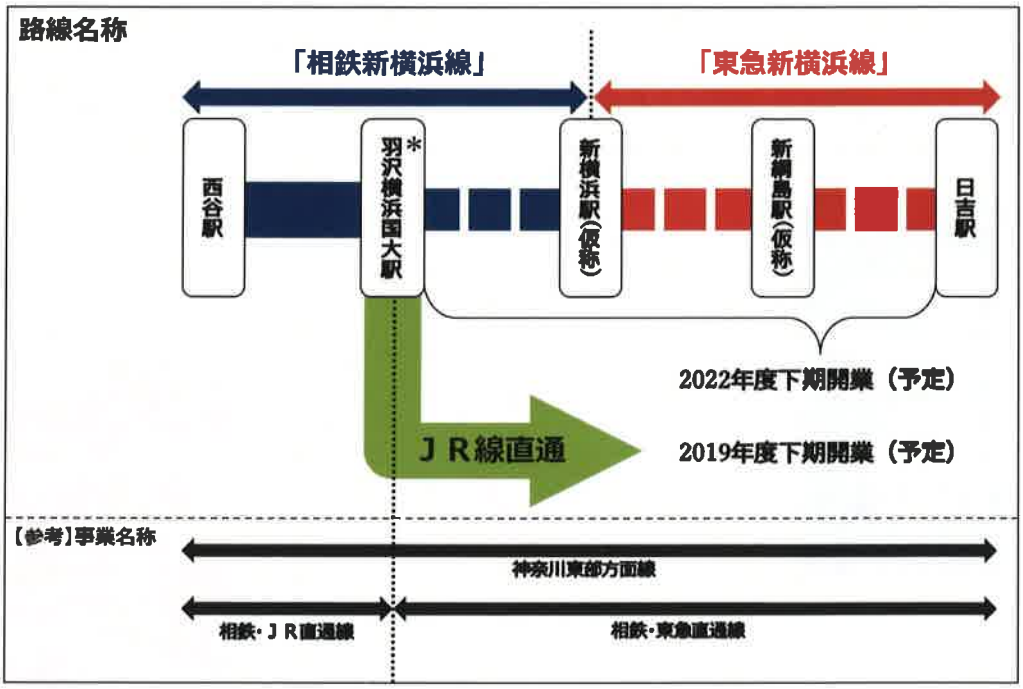
２０１８年（平成３０年）１２月１３日

神奈川東部方面線の路線名称を
「相鉄新横浜線（そうてつしんよこはません）」「東急新横浜線（とうきゅうしんよこはません）」に決定
新幹線アクセス拠点エリアを路線名に

相模鉄道株式会社
東京急行電鉄株式会社

神奈川東部方面線事業（相鉄・ＪＲ直通線、相鉄・東急直通線）の路線の名称について、相模鉄道㈱（本社・神奈川県横浜市西区、社長・滝澤秀之）は、相鉄の営業区間〔西谷駅～新横浜駅（仮称）〕を「相鉄新横浜線」、東京急行電鉄㈱（本社・東京都渋谷区、社長・髙橋和夫）は、東急電鉄の営業区間〔新横浜駅（仮称）～日吉駅〕を「東急新横浜線」とします。

２０２２年度下期の相鉄・東急直通線開業を見据え、新幹線アクセス拠点として知名度の高い新横浜エリアに直結する路線であることから、これらの路線名称に決定しました。



なお、２０１９年度下期（予定）には、西谷駅～羽沢横浜国大駅*間を通って新宿方面へ向かう相鉄・ＪＲ直通線が開業します。２０２２年度下期（予定）には、相鉄・東急直通線が開業することから、相模鉄道㈱では、相鉄線から都心方面に利用されるお客さまにそれぞれＪＲ線直通、東急線直通の列車であることを分かりやすく案内してまいります。

概要は、別紙のとおりです。

（別　　紙）

「相鉄新横浜線」「東急新横浜線」の概要

１．営業開始時期

相鉄新横浜線…西谷駅～羽沢横浜国大駅*間は２０１９年度下期（予定）

羽沢横浜国大駅*～新横浜駅（仮称）間は２０２２年度下期（予定）

東急新横浜線…２０２２年度下期（予定）

２．路線営業キロ

相鉄新横浜線…６．３ｋｍ（相模鉄道営業区間：西谷駅～新横浜駅（仮称）間）

東急新横浜線…５．８ｋｍ（東急電鉄営業区間：新横浜駅（仮称）～日吉間）

３．路線名選定理由

新幹線アクセス拠点として知名度の高い新横浜エリアに直結する路線であることをわかりやすく表現するため。

４．事　業　概　要

相鉄・ＪＲ直通線は、相鉄線西谷駅からＪＲ東海道貨物線横浜羽沢駅付近間に連絡線（約２．７ｋｍ）を新設し、この連絡線を利用して相鉄線とＪＲ線が相互直通運転を行うものです。また、相鉄・東急直通線は、羽沢横浜国大駅*と東急東横線・目黒線　日吉駅間に連絡線（約１０．０ｋｍ）を新設し、この連絡線を利用して相鉄線と東急線が相互直通運転を行うものです。

神奈川東部方面線事業（相鉄・ＪＲ直通線、相鉄・東急直通線）が完成すると乗換回数の減少、速達性向上、また新幹線駅アクセスの向上等が図られます。

注）相鉄・ＪＲ直通線の路線営業キロは２．１ｋｍ

５．そ　の　他

運行ダイヤなどの詳細は決まり次第公表します。

*神奈川東部方面線（相鉄・ＪＲ直通線、相鉄・東急直通線）は、都市鉄道等利便増進法に基づき、（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構が整備を行っています。駅名については、整備主体である（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構と営業主体である相模鉄道および東急電鉄が、同法に基づく手続きを行ったうえで、正式に決定します。